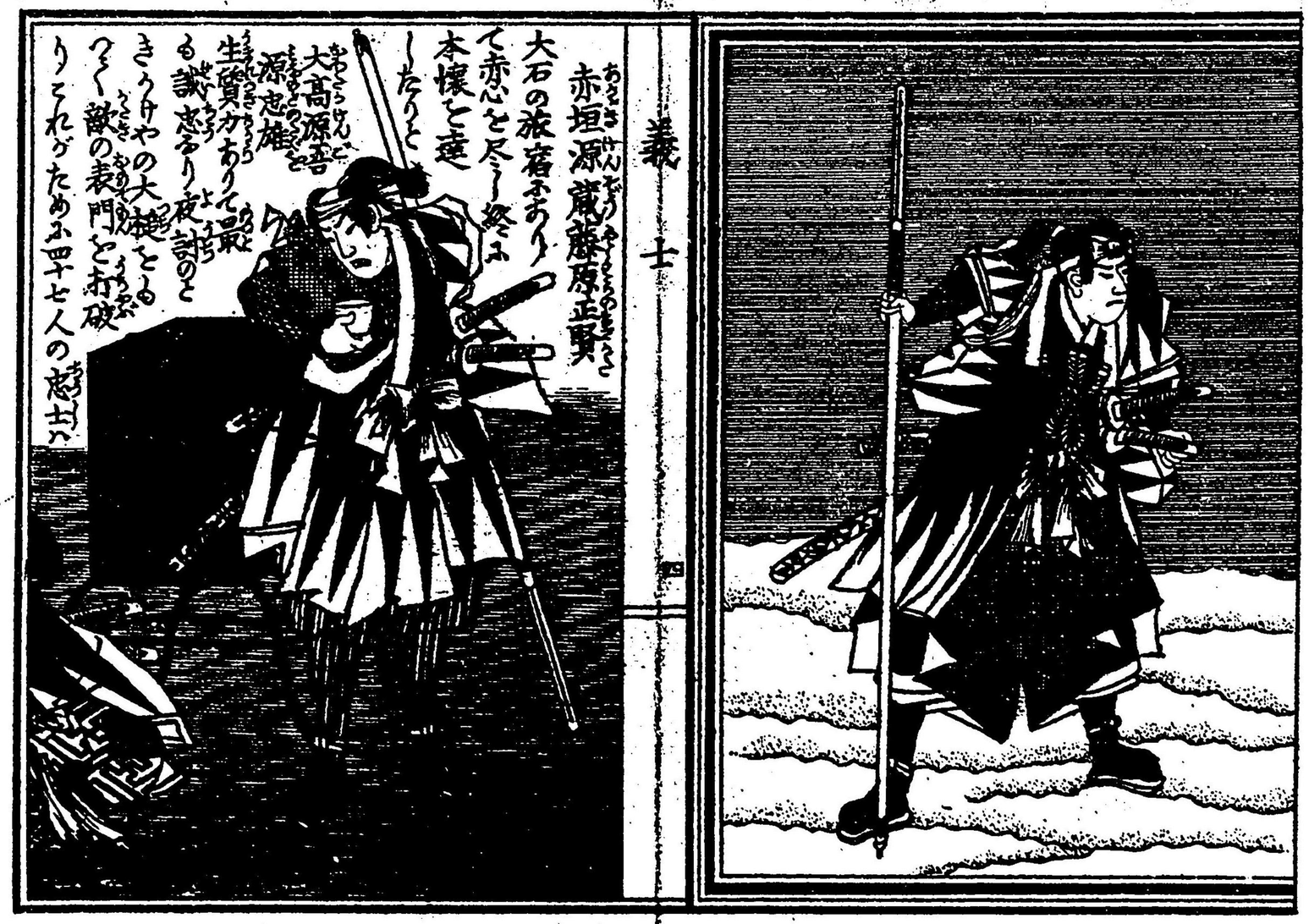
7
3
134

№10354

特64 564

淺野長矩

吉良義英


義士
赤垣源蔵藤原正賢
大石の旅宿ふあり
て赤心を尽〻終ふ
本懐を達
したりと
大高源吾
源忠雄
生質力ありて最
も誠忠なり夜討のと
きうけやの大槍とも
つ〻敵の表門を打破
りこれがためふ四十七人の志士

あんあく屋敷内へ入り大刀ぬきはらへきなり
小野寺幸左門秀當
大高源吾忠雄
義心錦石のごとく
大石内蔵助誓ひて養父重内と
ともに盟約に入り夜討
諸士ことごとくたくらきをもつて
一
五

倉橋傳助
清原武幸
氏ハ時内敵の地理
とあきらめ夜討のこと
衆ふ先立ちをとこの
案内とせ〜とい
近松勘六源行重
氏ハ生質温行德實
能く衆ゐ交り大石
の心中を察分骨細身
て討入り時る多くの
〜とり合〜ふ
敵ハ皆傷を受

或ハ斬殺され
とあらハ〜
とあ
横川勘平
宗利
氏ハ年
若き
討入の
二日前手途立退
る近傍の人々ハとい
ろ〜く思ひ居さり〜ば思
討入の人數の中ふ其名の見へ
ぬハ左様ぞ
ぬ

菅谷半之丞菅原正利
幼年より浅野家につく
一ゲ内西頭深く愛
一ゲ迄。
習小姓と
動め一ゲ成人

矢田五郎左エ門
藤原祐武
主家滅亡の後赤垣源蔵と
共に芝に住し武助と妻名し
居しが本懐を遂引上ると
近辺の人々矢田赤垣と見て大ふ警き
不破数右エ門平正種
江戸に下り義士の列に入
倉営中の騒動をせしを憤り頭取を打擲せ
ん為戯場を
して馬廻り
昇進し敵討
の夜天晴のと
ならさを為せ
り

間新六郎
藤原光風
主家の大変
と聞より
大石ふ従さま
ぐふ身をゝ品を
ゝえゝ敵の
實地を探
り自ら
内蔵之助方へ言やゝり けゝふ
よゝゝ敵地の案内を詳ふ知ゝゝ

との光風が切るりと
堀部安兵衛源武康
浅野家の恩を重ド終ひゝ復讐の列ふ入り
大石の下知を守り本意とげたり一世ふ三
度の仇と討ーハ此武康ありと傳ふ
神妙奇與五郎源
則休
さまとうえ
て吉良ゞやーきへ
入込様子をさぐりて
一々大石ふ告ゝゝで
是ふさすりを得て一統
本望を達ーたりゝゝを

前原伊助宗房
氏ハ浅野家ニ永く
つかえしが主家
の滅亡と聞
歯ぎしを為
し残念ふ思
大石ふ歎願
す―然ふ義
列ふ加わり
本望を達

吉田澤右衛門
藤原兼貞
習ひ得て此人眼つぶし
と打つ妙術あり夜討
のときたゝひあゝ四方
へ眼つぶしと打ふ一ツとて
あるまじ實ふかどろくべき
早つぎあり
勝田新左衛門源武堯
関東ふ下り商人ニ身をやつし朝ゲル
ゆきをさぐり大石ふ
知らしめ終ふ本懐
とゝげたりとぞ

杉野十平次次房
年若なれども勇気烈しく討入の
夜庭前に戦ひしが頃て泉水に
土橋の上へ二人のてきを追ひ往
しが雪に辷りて土橋を退てい
外へ池の中へ陷りしを上より
鎗を突て突んとせしを真
桐と飛出て板打に敵
武林只七孟隆重
大石とくもに仇討
の企ありしを聞老母

吉田忠左衛門藤原兼亮
歳六十を越えたれども
忠義一徹の士にして
本懐を達し後
良雄が
細川家へ御預け
くれぐれも
強勇比類
なき士なり

富森助右衛門
源正国
忠孝両全の士ふ
して夜討のとき比類
なき働きとなせり又俳諧

と替て沾徳の門たり
俳名を春帆と
寺阪吉右衛門信行
主家退轉のち大石ふ
組義士の中ふ入り本望
遂たり

岡野金右衛門
藤原包秀
氏の武術ふ
功ありて其内
槍術ふ妙を得て討入の
夜鎗の鋒先ふ命を落せり

間重次郎
元興
吉良の邸のゆうきとこと
その身乞食
歩行
間体の
うえづき
ゆうきをよせ
あくこれと
とりこと
間喜兵衛藤原光延
士ハ夜討のとき敵方の
小林平八郎と父勇士と

武林唯七
菅谷半之丞

大高源吾
赤垣源蔵
大石義雄

相手ハ大ひふ戦ひーグ繁ま
彼と仕とめくり
岡島八十右衛門常利
氏ハ主家滅亡の後関
東へ下り大石ゐ面會ー
て義士列ふ入りをれすり
歌のやうもとさぐらを
種々ふさまとうえく
りち菓子とうりあ
ーて歌の郷へりー氏
ミ方ゑと直ふ大石
うへ告るりけれ
大ふ便宜得くー

片岡源五右
衛門源高房
常ふ君の堅傷ふ
ありて万全とをくり
粕井藤江の暗士其
意と用ひざるよう
こと起り長矩切腹ふ
及ひー程の大事とかも
せーと
中村勘助政辰
吉良家へ出入ち
大工棟梁ふ便りと
得て御殿住居向の

絵図を悉くうつし
取りこれを大石あてへ
ふ間まもなく手配りおも
行とてさしもとの
千葉三郎兵衛
光忠
故ありて主
家の恩元
と蒙り居たり
しの織元の為大
石ひきもちびて終ふ義士の
列ふ入り死とうくもの
恩を報ぜーあり

貝賀弥左衛門友信
大石深き慮ありて義
士五十八通の誓ひと表
して返さるゝ文書
熟のりのハたちまちに
心ゝたりと
木村岡右衛門
源貞行
壮士ふるゝて武術
忠義一心あるゝ
主君の滅亡を
歎き夜討の列に入
りて太ひらゝ

きとゝのゝたりゝと
奥田孫太夫重盛
氏ハ武術何ゝれと
あゝ俊行あゝ
が中ゝの半弓
と射るゝ
夜討の
きゝのゝ
少て秘術を尽
敵ふあたりゝ
群のゝきゝあり
ゝゝらん

潮田又之丞高教
浅野家の臣となり
より無二の誠忠あるゆへふ
内匠頭も深く愛し給ひ家様
二百石ふ登用とり討入の夜縄梯子で
真先まとび入り比類なき
大石瀬左衛門藤原信清
氏ハ浅野累代の臣ゆへ最も誠忠
ののあり討入りの夜高
教ゲあるつく泉水へ陷り
と敵ハ得たり〳〵と
鎗をそつんとせ〳〵と

横合より敵の
真向斬つけ終ふ高教を
救ひあげ〳〵と
茅野和助常成
主家滅亡折〳〵も国ゆ〳〵
此大変を聞とひと〳〵
江戸へうけつけ忠義の
たゆふいのちをなせ
〳〵勇々
〳〵壮士あり
き

奥田貞右衛門
藤原行高
氏はいとまの早業を討入の夜敵と切るを鎖りて草を苅るがごとし元も武術に達人の聞へあるものなり
原惣右衛門
元辰
氏はいとまの

人望あるものなれば大石都ふ在りて江戸ふ盟約のものを指揮せしめ置ーゲ人々彼の言ごとと肖うぎりー麹町ふ在りて因業とあーー居さりと
堀部弥兵衛
源金丸
浅野家の恩と重んじつひに復讐のれつふいりしが討入りのときそなる人々とあーーとぶめしい實ふ大膽無双の男士なり

矢頭右衛門七
教兼

氏ハ大石と心を
合せ獻の油斷をとろう
終ハ本懷を達し
さう

村松三太夫
高直

氏ハ敵地ハ入りまゐらも
奥深くいんとせーハ支えゑ者あるハ
より或ハ切伏せ或ハ難例トーハ敵
迫

貉辺ーあり

村松喜
兵衛

藤原秀
直入道隆円

主君滅亡の后箸
城殉死の風聞ハ一子
三太夫とゑハ百七十里の
みちを五日のあひだ
くけつけ〜強壮の者
人あり

左衛門藤原政久
氏ハ文武ふ長じ
才智人ふすぐれ
る種々の知畧をめぐらし
大ひふ人々の助けふ成
間瀬孫九郎紀正辰
氏ハ誠忠ふして
人の過あるときハ
己ら引受功ハ

人ふ命じ討入
の夜大功あり
も少しも
き事ハ
小野寺重内藤原
氏ハ江戸ふありて小野
十菴と変名し探
とあ〜て諸家へ出入
し敵の
ぐり終ふ本懐と達
したり〜ふ妻ハ夫の
望達せ〜ときて自
死〜こりとそ賞ふ

明治二十一年五月廿一日印刷
全　五月廿八日出版

本所区緑町四丁目五十一番地
印刷人　湯川松兵衛

日本橋区馬喰町二丁目九番地
編輯兼発行者　荒川藤兵衛

091906-000-4

特64-564

赤穂義士銘々伝

錦耕堂

M21

DBP-0003